

JBC 2歳優駿競走の実施について

農政部競馬事業室

1 JBC競走とは

- JBCとはジャンプリーディングファーマーズカップ（Japan Breeding farm's Cup）の略称。
- 競馬界を盛り上げるため、軽種馬生産者の発案・主導により1984年にアメリカで同一日に各カテゴリー（年齢、性別、距離など）のナンバー1を決定するために創設されたブリーダーズカップを模範としている。
- わが国においても「ダート競馬の祭典」として、年齢、性別、距離などの各カテゴリーのチャンピオン決定戦とすべく2001年に創設され、毎年、地方競馬主催者の持回り（2018年のみ例外的にJRAが実施（京都競馬場））で開催しており、国内認定の最高格付け競走（Jpn I）となっている。

2 JBC 2歳優駿競走の創設の経過

- 2019年3月のJBC実行委員会において、2歳戦カテゴリーの創設が提起され、各地方競馬主催者の持ち回りで開催される既存3競走とは別に、2歳戦は当面の間、門別競馬場で実施すること、レースの名称は「JBC 2歳優駿」とすることが決定。

3 2020年JBCの実施に向けて

(1) 想定される効果

- JBCは競馬ファンに人気が高く、地方競馬界をあげて発売拡大を行うことから発売額の拡大が見込まれる。また、門別競馬場でJBC 2歳優駿を実施することで、2歳戦が多いホッカイドウ競馬のステータス向上が見込まれるところ。
- JBCはもともと生産者の祭典として創設されたものであり、2歳戦を門別競馬場で実施することにより、道内馬産地での強い馬づくりなど生産振興意欲の促進が期待されること。

(2) 実施体制の整備

- 第20回目の記念となる2020年JBCについては、既存3競走が大井競馬場、2歳戦が門別競馬場の分散開催となることから、一体感を感じられるよう両場が協調・連携を図って取組みを進めているところ。
- JBC当日、門別競馬場には最大4,500名の来場者を想定し、現在、北海道と（一社）北海道軽種馬振興公社で受入準備を進めているところ。

【JBC競走のカテゴリー】

競走名	特徴	創設年
クラシック	3歳以上馬の中距離競走	2001年に創設
スプリント	3歳以上馬の短距離競走	
レディスクラシック	3才以上牝馬限定の中距離競走	2007年に追加
2歳優駿	2歳馬の中距離競走	2020年に追加

【2020年JBCの開催概要】

開催予定日 令和2年11月3日（祝・火）

競馬実施場 大井競馬場

（クラシック（Jpn I）、スプリント（Jpn I）、レディスクラシック（Jpn I））
門別競馬場（2歳優駿（Jpn III））

【参考】

2019年JBC浦和について

- 1 開催日 令和元年11月4日（振・月）
- 2 1日の売得金額 58億3,151万円（JBCレコード）
(2018年度 浦和競馬1日平均売得金額 8億4,493万円)

【各レースの売得金額】

- クラシック 17億9,831万3,800円
(JBCレコード 2017年大井 18億1,236万8,300円)
- スプリント 16億2,614万4,900円（JBCレコード）
- レディスクラシック 11億3,114万6,900円（JBCレコード）

- 3 入場人員 29,191人
(2018年度 浦和競馬1日平均入場者 3,334人)